

第649回:五馬進京、一馬当先

あと数日で7月1日を迎える中国は、いま中国共産党創立100周年の記念行事の準備で、てんやわんやのようだ。習近平政権にとって今年は政治の年。これから始まる節目の7月1日「建党節」、8月1日「建軍節(=中国人民解放軍創立記念日)」、10月1日「国慶節=記念日」を誇示することで、“習一極体制”の“実質確定”を内外に示したい考えだ。

2012年に誕生した習近平政権は、同年にチャイナ・ウォッチャー矢板明夫氏が出版した著書名ではないが、「共産中国最弱の帝王 習近平(文藝春秋社)」だと酷評する声すら聞かれたものだったが、いまや「2期10年」という中国政府トップの人事慣例を破り、憲法すら改め、2022年以降の共産党トップ3期目を完全に視野に入れた布陣を着々と築いている。

そんな状況下、中国当局は6月25日、北京で新設の「中国共産党歴史展覧館」を内外メディアに公開した。報道によると展示の内容や形式は習近平党総書記(国家主席)が直接指示し、共産党史を4部構成でまとめたという。即ち、①1921年、共産党設立、新民主主義の偉大な勝利、②49年、中華人民共和国設立、社会主義革命を遂行、③78年、改革開放政策に基づく中国の特色ある社会主義政策を推進、④2012年、習近平政権成立、小康社会の全面的建設・こんな流れとなっている。

シナリオとして4時代の内、社会主義体制の構築に至る①②の時代の主役は毛沢東。次に③改革開放政策を指導した鄧小平、江沢民、胡錦濤を十把一絡げで③に押し込み、ここで3人の功績を纏めて評価し、そして、④の主役は習主席ひとり、つまり1強⇒3弱⇒1強の流れとなっている。

もちろん、誰の時代のできごとだろうが、負の歴史は抑制されている。30年、毛沢東が江西ソヴィエト区で発動した粛清「富田事件」、42年の内ゲバ「整風運動」、54年の「高崗・饒漱石事件」、1957年の反体制狩り「反右派闘争」、数千万人が餓死した57年「大躍進政策」、62年、習近平実父が失脚した「反党小説劉志丹事件」、そして66年から始まった大衆政治運動「文化大革命」などはカットされているか、簡単な展示があるのみ。89年の天安門事件も、武力弾圧後に鄧小平が軍幹部らと握手する写真だけのようだ。

これまでの習近平主席の言動から推測するに、彼は鄧小平に対し、冷たいと云うか、あまり親しい感情は持っていないようだ。78年の改革開放が始まって以降、中国の指導者は胡耀邦、趙紫陽、江沢民、胡錦濤と全て鄧小平が決めてきた・でも習近平は違う。これは仕方ないことで、彼は鄧小平が1997年2月に逝去した年の9月の党大会でやっと中央委員候補となったくらいだから、鄧小平との接点はなかった。

鄧小平の三女・鄧榕の著書「わが父・鄧小平」の中には周恩来、陳毅、聶榮臻、劉伯承、羅榮桓、李富春など鄧家と親しい関係にあった人物が数多く登場するが、習仲勳ファミリー出てこない。でも鄧小平が昔の同僚・習仲勳の息子が若手政治家として売り出し中であることは承知していたはずだ。両氏には50年代に燕京を騒がせた「五馬進京」と云う共通項がある。

【馬】と言えば、中国人がまず思い浮かべるのは「一馬当先」(率先して事に当たる)、「馬到成功」(成功を祈る言葉)、「汗馬功勞」(汗馬の勞、奔走の勞)、「竜馬精神」(元氣澆刺とした心意氣)といった馬に関する様々な成語や祝福の言葉だろう。・・・これ中国共産党の青年部門・共青団傘下のウェブサイト青年網(日本語版)の記事の引用である。日本でも海外でも、有力政治家を馬に譬え、本命、対抗馬、ダークホースなどと形容することがある。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

中華人民共和国の設立は 49 年 10 月だが、当時蒋介石はまだ重慶で抵抗活動を続けており、国共内戦は終わっていなかった。ただ大勢はほぼ決したので、大陸の一部地域で抵抗を続ける国民党軍を無視して、共産党主導で 10 月 1 日に北京で建国式典が行われたのである。

そんなわけで、50 年代初の中国は、北京中央に毛沢東、周恩来、朱徳と云った大物を配置しつつ、地方を 6 つの行政区に分割し、以下のとおり大物の軍人や行政官たちに統治させていた。

華北局（北京）	劉少奇 聶榮臻
東北局（瀋陽）	高崗
華東局（上海）	饒漱石、陳毅
中南局（武漢）	林彪、羅榮桓、鄧子恢
西北局（西安）	彭德懷、習仲勳
西南局（重慶）	鄧小平、劉伯承、賀龍

そんな状況下、地方も徐々に落ち着きを取り戻し、一方中央では第 1 次 5 年計画が始まるということで、毛沢東は（鉄砲を撃つしか能のない兵隊上がりではなく）、事務処理能力の高い能吏タイプを、地方勤務の書記の中から選抜して、中央に呼び寄せ、大きな政府を作ろうとした。

そこで白羽の矢が立ち、要職に抜擢されたのが①東北局・高崗（⇒人民政府副主席）、②華東局・饒漱石（⇒党組織部長）、③西北局・習仲勳（⇒党宣伝部長）、④中南局・鄧子恢（⇒党農村工作部長）、⑤西南局・鄧小平（⇒副首相）の 5 人。しかも高崗が最重要ポストに就いたので、都雀たちが、「五馬進京・一馬当先（＝五馬が入城し、内一頭が飛びぬけている）」と囁き立てたわけだ。

「五馬」に選ばれたが、「一馬」になれなかった鄧小平は不愉快だったに違いない。新中国を建国したのは「長征」に参加した軍人と云うのが定説である中で、高崗と習仲勳は疲労困憊で延安に転がり込んできた毛沢東や鄧小平たちを出迎えた西北根拠地の指導者だった。饒漱石は長征前後、コミンテルン活動でソ連に滞在し、中国不在の期間が長かった。鄧子恢は長征に参加せず、後方に残留した新四軍系の人物だ。

長征を経験し、国共内戦で野戦軍を指揮し、軍人として元帥又は大将に任命されてもおかしくない人物で、なお且つ毛沢東と行動を共にした時間が圧倒的に長かった人物は、「五馬」の中で鄧小平だけであり、彼が「自分こそが党の保守本流」と確信していたことは間違いないだろう。

建国後、猜疑心が強くなった毛沢東は部下を次々に失脚させ、54 年「高崗・饒漱石事件」で高崗は自殺、饒漱石は獄死、62 年の「反党小説劉志丹事件」事件で習仲勳は 16 年もの長い失脚期間に入ることになるが、このとき毛沢東の指示を受け、反対もせず摘発に動いた最高責任者の中に周恩来や鄧小平がいたのは事実だ。習近平はそんな関係で 10 歳から 25 歳までの 16 年間辛い生活を送った。そんなトラウマから、習主席の鄧小平に対する複雑な感情は今も残っているに違いない。（了）

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2021 年（令和 3 年）6 月 29 日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行（現三菱 UFJ 信託銀行）入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007 年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識（時事通信社）、中国ビジネス笑劇場（光文社）等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。